

ラオス経済・投資環境視察ミッションの結果

—第二メコン国際橋開通後のラオス—2006年12月18日—24日—



ミッションには、報道記者5人、企業9人、その他政府機関等、計23人が参加。1週間、ラオス南部パクセ、中部サバナケット、首都ビエンチャンをバスで巡る充実した視察であった。ミッションの目的は、以下2点。

1. 第二メコン国際橋完成後の東西回廊およびサバナケット周辺の投資環境視察、第二メコン国際橋開通式典参加
2. ラオスへの日系進出企業（特に縫製関係）視察を通して、ラオスの投資環境を視察

<結果全般>

1. 東西回廊がつながることは、特にタイ・ベトナムに進出の企業にとって重要であるが、どれだけラオスの投資環境に影響するかは不明。今後、サバナケットの経済特区に焦点を絞り、物流関係等の投資促進が必要があると思われる。
2. ラオスの人件費はバンコクの1/4から1/3といわれるが、ラオス人個人の労働意欲・能力、物流コストなどを勘案して、投資にどれだけのメリットがあるかの見定めが必要。
3. タイ工場の第二工場としてのラオス進出の魅力は、タイ語が通じるラオスにタイ

人スタッフを派遣できるため日本人を多く駐在させなくてよい点、ラオス人工員がタイ工場での研修ができる点、縫製産業を中心にクォータの恩恵を享受できる点がある。

<訪問各地での結果>

1. 第二メコン橋開通:



- ① 12月20日の第二メコン橋開通式典に参加。タイからはシリトーン王女、スラユット首相、ラオスからはブンニャオ副大統領、首相、また、ベトナムからもグエン・タン・ズン首相が参加。橋の資金援助国（日本政府からのタイ・ラオス両国へ各々40億円の有償資金協力案件）である日本政府からは浅野外務副大臣および山本経済産業副大臣が参加。また、バンコク日本人商工会議所、ハノイ日本人会から各々約20名が参加した。総勢1200人、うち日本人150人参加の盛大な式典であった。
- ② 20日午後には、国際機関日本アセアンセンター、ジェトロバンコク、在ラオス日本大使館およびラオス政府主催の投資セミナーに参加。橋の開会式に出席した日本人約100名とラオス政府機関関係者50名が参加。山本経済産業副大臣、スリヴォンラオス計画投資委員会委員長の共同議長で進行し、タイ・ベトナム・ラオスに進出している矢崎総業、メコン地域の物流に詳しい山九運輸、ラオス投資局、サバナケット特別経済区他からの講演と意見交換が行われた。講演では、特に、タイ・ベトナムに進出の日系企業にとって、第二メコン国際橋開通後のラオス・サバナケットの戦略的位置は重要になるが、通関業務の簡素化・効率化などが大きな課題、といった議論がなされた。

2. 企業訪問



① (パクセ)ラオス系インスタントコーヒー工場

(ラオス産コーヒー豆、ベトナム産ミルク、タイ産砂糖を混ぜたインスタントコーヒー製造を近年開始。国内シェアは90%。グループ雇用は約1000人)。課題は焙煎技術・設備がないためインドネシアへ焙煎加工のため輸出後、輸入している。今後、国内での焙煎が求められる。

② (サバナケット)日系縫製企業

(100%外資。靴下製造、全量日本へクォータを利用し輸出。材料は全量輸入。タイに工場がありラオスは第二工場)、160人雇用(内、タイ工場からタイ人10人派遣、日本人1名が非常勤)、労働者は3シフト。400台の編み機があり国内最大規模だが、まだ、本稼動していない。課題としては、ラオスは人件費がタイの1/3から1/4だが人材不足であること、欠勤率が高いこと、クォータ申請手続きがサバナケットでできずビエンチャンまで3-4日間事務員を派遣しなくてはならない点など。

③ (ビエンチャン)日系縫製企業

(100%外資。Yシャツ製造、全量EUへクォータを利用し輸出、材料は全量輸入。タイに工場がありラオスは第二工場)、2006年1月操業開始。181名雇用(内、タイ工場からタイ人7名を派遣、日本人1名常勤)。労働所は1シフト。出勤率は97%で悪くないが、月に6%くらいが退職する。労働者の補充は問題ない。賃金は大体45ドル/月程度。課題はラオス人工員の作業効率である。賃金もタイの1/3から1/4だが、タイ人の3-4割程度の作業速度であり今後、育成が課題。

④ (ビエンチャン)ラオス系縫製企業

(100%ラオス資本。ポロシャツ等製造。クォータを利用し EU に輸出。材料は輸入) 系列にベトナムとの合弁工場もある。

⑤ (ビエンチャン) 日系生花栽培・輸出企業

(100%独資、10 万ドル。蘭、熱帯観葉植物を栽培し、日本や韓国、中国へ輸出予定。) 2006 年 10 月に投資許可取得、現在立ち上げ中。愛知県の生花農家だが、近年の原油高で温室栽培費用が高騰、熱帯地方での栽培を模索中、ラオス人友人との縁がありラオスへ進出を決意 (日本アセアンセンター協力案件で、ラオスへの外資園芸分野では初)。苗を EU や日本から輸入し、数ヶ月栽培し輸出予定。目下、試験的に栽培を開始。輸出入の通関業務もラオス人コンサルタントの協力でなんとかスムーズにしている。

ミッション参加者の感想

- ① ラオスの人件費はタイの 1/3 から 1/4 だが、労働能率や労働意欲、物流コストなどを勘案し、投資のメリットがあるのかどうかを見定める必要あり。
- ② 縫製業ではクォータを使えるのは強み。
- ③ 2007 年 1 月から日本人向けビザ不要は朗報。
- ④ 第二国際メコン橋開通で、特にタイやベトナムに進出の日系企業にとって、サバナケットの地政学的地位は向上するが、ラオス自身の魅力が高まるかは不明。
- ⑤ 7 日間のバスでの移動により、現地事情の理解が深まった。

